

北海道・三陸沖後発地震注意情報に関する 東北大学(災害科学国際研究所)との協働調査の結果について

令和7年12月8日に発生した青森県東方沖を震源とする地震では、翌9日に国から初めて「北海道・三陸沖後発地震注意情報」が発表され、住民に広く防災対応の注意が呼びかけられました。これを受け、その認知度や防災行動への影響、課題等を客観的に分析し、今後の防災施策につなげるため、県と国立大学法人東北大学との包括連携協定に基づく協働調査として、アンケート調査を実施しました。

このたび、その調査結果を取りまとめましたのでお知らせします。

記

1. 期間：令和8年1月13日（火）～1月25日（日）
2. 対象：県内住民のうち、ポケットサインを導入し、アンケートアプリに同意している方
3. 調査方法：アンケートアプリ（デジタル身分証アプリ「ポケットサイン」内のミニアプリ）
4. 回答件数：8,892件
5. 主な調査内容（全17問（30項目））
 - ・ 注意情報の認知・受け止め
 - ・ 具体的な防災行動
 - ・ 社会活動への影響・混乱
 - ・ 現在の状況
6. 結果概要
 - ・ 今回の発表により注意情報の名称や内容が浸透した。
 - ・ 注意情報で呼びかけた「日頃からの備え」「特別な備え」については、内容ごとに実施状況に差があった。
 - ・ 社会活動に大きな混乱はなく、偽情報・誤情報にも冷静に対応していた。
 - ・ 注意情報は防災意識の向上に効果があった。今後とも避難生活の不安解消に向けた取組が重要。

調査結果は下記ページに掲載しています。

https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/bousai/enquete_r7kouhatsu.html